

# 王滝



王滝の「王」の字を囲む上部は、山々の緑で表し、下部は清らかな水の流れを青い色で表した。

## 王滝自治区データ

(H27年1月1日現在/市HPより)

世帯数：51世帯      自治区戸数：40戸  
 人口：147人      組数：3組  
 平均年齢：51.61歳      高齢化率：38%  
 面積：109.3ha  
 小学校区：九久平小学校  
 自治区たより：王滝だより  
 集会所：王滝自治区公民館（平成17年度建築）



## 王滝の概要・由来・歴史

王滝自治区は、四季を通して王滝渓谷を訪れる観光地内。

その昔、延文元（1356）年には既に人が住んでいたことが事実であり、明徳～宝徳年間（1390～1451）に築山がひとつの集落として認められたとある。また、明治維新の築山は、妙昌寺と鈴木17戸によって構成されている。（王滝町小史より）

昭和32年頃はガラ紡の全盛期で総世帯の半数以上が家内工業として生計し、県内外から大勢の職工を雇い活気を呈していた。その後、化繊が主流となりガラ紡は衰退し昭和40年にはほとんどが操業を停止し、サラリーマンへと転職をした。

稲作農家は昭和40年以降0軒で現在に至り、昭和45年に豊田市と合併と同時に築山から、自治区内を流れる王滝渓谷にちなんで王滝町に町名を変更した。

## 名所・文化

### ●妙昌寺

延文元1356年無外円昭（薩摩国、現在鹿児島県生まれ）がこの地に足を留め草庵をつくり円昭庵と称したのが始まりで、三河鈴木氏一族の御廟所として知られている。



### ●制札

豊田市の指定文化財として、永禄3年(1560年)家康が19歳、蔵人元康と称した頃、松平入りした折に記された禁制札等、多くの仏典、古文書が妙昌寺に所蔵されている。



### ●王滝渓谷

この一帯の渓谷は、奇岩累々として重なり景観は美しく桜、新緑、紅葉など四季折々の山容が人々の眼を楽しませ、東海の昇仙峡ともいわれている。



### ●下馬の刻

妙昌寺参道から渓谷右岸を20mほど登ると、『下馬』と刻まれた大岩がある。寺領は江戸幕府からの御下賜領であったので大名、旗本といえども、馬、籠に乗っての通行を禁止したものである。



### ●伊保神

万霊を祀りし所にして霊泉湧き出て、古より御神水と称して難病に効あり。『イボ』に塗布して霊験あらたかなり(築山村誌より)



### ●不動明王

王滝渓谷の通称不動山に、明治末期に長野県の荒沢不動尊の分身を祀られ、5月には参道のどうだんつつじが開花し目を楽しませている。



### ●弁財天

明治末期に王滝渓谷の蛇淵水を堰き止め水力を利用した水車式製綿工場を開設、『河川神』として水辺に祀り昇天続きの時は村人が集まって『雨乞い』をした。



## 行事・おまつり

- ① 交通安全市民運動
- ② 環境美化・河川道路愛護作業
- ③ 王滝渓谷清掃・草刈り作業
- ④ 新年の挨拶会
- ⑤ 自治区民ふれあい祭り
- ⑥ 王滝渓谷もみじ祭り
- ⑦ 自主防災訓練・炊き出し訓練
- ⑧ 年度末総会



## ◆ 王滝自治区民憲章 ◆

王滝自治区民は次の事に心がけます。

- 一、安全・安心してらせる町づくり
- 一、お互いを信頼し、連帯しあえるふるさとづくり
- 一、郷土を愛し、奉仕精神の豊かな人づくり

## おまつり

- ① 祈年祭 (2月)
- ② 不動明王祭礼 (3月)
- ③ 伊保神祭礼 (4月)
- ④ 弁財天祭礼 (6月)
- ⑤ 津島神社祭礼 (7月)
- ⑥ 神明社祭礼 (10月)
- ⑦ 新嘗祭 (12月)

氏子総代の元、門松づくり、五穀豊穡の祈年祭から、五穀豊穡を感謝する新嘗祭までの世話役を地元民が回り番で行っている。

## 王滝の課題

ここ近年どの自治区も先ず課題としてあげられるのは住民の高齢化に思う。自治区を運営する後継者の不足、またお祭りの支度等で神社の幟を立てるにも高齢者、またご婦人の方の労力では安全の確保が難しいのが実情である中、王滝自治区では年々、委員の年齢制限の上方修正、或いは削除、また役員任期の延長等、規約或いは細則の見直し・改正を余儀なくしている。それを自治区民に理解してもらうためには、自治区民の皆さんとのふれあいの場を多く持ち、コミュニケーションを更に密にし、役員だけでなく皆で考え安全・安心な明るい街づくりに努めていきます。



王滝渓谷内不動山から王滝町を望む

